

役員会報告

書記 畠義信

◆第一回役員会
四月五日(月)
清水が丘教会とウェブ形式併用で開催され、総会の事、新任歓迎会、広報誌の計画を話し合いました。

◆総会
四月十三日(火)
ウェブ形式による総会となりました。

◆第二回役員会
総会後、清水ヶ丘教会ミッションホールにて開催。

◆第三回役員会
五月十一日(火)
ウェブ会議形式で行いました。

◆第一回プロジェクト委員会
六月四日(金)
ウェブ形式にて顔合わせ

◆第一回講演会
六月十六日(水)
ウェブ形式で利府キリスト教会、松田牧人牧師より東日本大震災から十年の今の歩み。

◆第四回役員会
六月二十一日(月)
ウェブ会議形式で行いました。



◆プロジェクト委員会
六月二十二日(火)
ウェブ形式、夏期講習会打合せ

◆新任研修会歓迎会
六月三十日(水)

ウェブ会議形式で和泉短期大学教授松浦浩樹先生に「キリスト教保育を再考する」と題してのご講演。

◆第二回プロジェクト委員会
八月四日(水)
ウェブ形式で行いました。

◆夏期講習会
八月二十四日(火)

ウェブ形式で全体礼拝ののち、
A. 小野慈美先生、B. 小児歯科医相馬美恵先生、C. 宮城教育大学・佐藤哲也先生と三つの分科会を持ちました。

◆中堅保育者研修会
九月二十九日(水)

ハリス幼稚園のSDGSの取り込みを紹介いただき、SDGSについての学びの時を持ちます。

◆クリスマス礼拝
十二月一日(水) 一五時半

野毛山教会よりライブで参加して頂けるように計画し準備いたします。時と心を同じくして礼拝を守りましょう。

◆設置者・園長・主任研修会
十二月二十七日(月)

ウェブ形式で岡村直樹先生に「ミニストリーとしてのキリスト教保育」のお話をいただきます。

◆保育環境研修会
一月十九日(水)

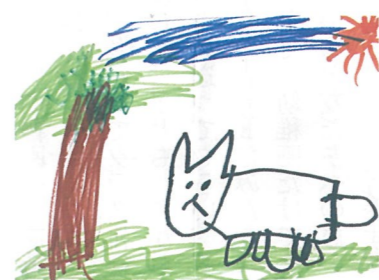
幼保連携認定こども園として歩み始めた宮の台幼稚園の環境と保育をウェブ形式でご紹介いたします。

◆次回役員会開催日
八月十七日(火)、ウェブ会議形式予定

◇今年度、ウェブ形式が中心の学びとなりますが、今できる事を模索して参りますので、ご参加くださいますようお願い申し上げます

編集後記

この夏も賑やかに蝉は鳴き、太陽は輝きます。先日、お父様方に園の大工仕事をお願いしました。その傍らで子ども達は水遊び。夏の日差しの中変わらない親子の笑顔がありました。躍動の夏から充実の秋、それぞれの園の取り組みが実りの季節に向かいます。主のめぐみを数える喜びが与えられますように。



◇発行日 2021年9月10日
◇編集者 神奈川部会 広報担当
百合丘めぐみ幼稚園/大谷真理子
霞ヶ丘幼稚園/大西亜津子
◇デザイン 永野絵理世
◇イラスト提供 百合丘めぐみ幼稚園

キリスト教保育連盟 神奈川部会 2021年度主題

共に喜んで
～すべての歩みの中で～

聖句「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです。」
—コリントの信徒への手紙— 12章26節

部会だより

キリスト教
保育連盟
神奈川部会
2021年9月10日
第139号

「頼れるお方がいる喜びと
励ましの中で」
関東学院六浦こども園
鈴木 直江



◆聖句◆
「目を上げて、
わたしは山々を仰ぐ。
わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る。
天地を造られた主のもとから」
詩篇121編1～2節

新型コロナウイルス感染症の脅威が長引き、子どもも大人も「やりたい」「やってみよう」という思いがくじけそうになることが多々ありました。どんなに工夫をしても叶えられない時、私たちは不安や恐れを抱いて立ち止まります。そして、どうしようもない怒りをどこかにぶつけたくなるのです。私も園を任される立場となり、迷いや悩み、焦燥感に苛まれることが何度もありました。

『どうしたらいいのだろうか?』と思いを巡らせ、ふうつと息を吐いて上を見上げます。気が付くと神さまに語りかけている自分がいました。

矢継ぎ早に「なぜ?」「どうして?」と問いかける私に、神さまは黙って聴いてくださっています。私の心の波が静まるまでいつまでも…。

ようやく、落ち着いて「神さま」と呼び掛け心のうちを何もかもお話しすると、嘘のように少しずつ心の雲が晴れていくのです。(祈りは、私たちに与えられている大切な宝物です)そして、不思議なことに必ず応えが与えられました。それまで、マイナスな事として捉えていた事が物事を考え直すきっかけや発想を転換するチャンスになることを知って、決して困る事や嫌な事だけではないと思わされました。ただ形式を変更するだけでなく、今まで良いと思っていた内容や体験してほしいことをもう一度、『今の子どもたちや保護者に必要な経験なのだろうか?』と先生たちで話し合うことで新たに作り出していく知恵と力を与えられたのです。幾度もこのような経験をすることで私は、真の頼れるお方がいることの喜びと励ましをいただくことができました。

神さまが私たちと共にいてくださることを信じ、すべては神さまのご計画の中にあるのだと安心して任せることが出来た時、心に平安と力が湧いてきました。そして自分の弱さを知っているからこそ私たちは強く

なれ、また一歩前に歩き出すことができるのです。このことは、私だけでなくキリスト教保育の園の先生たちは皆、知っておられるでしょう。この恵みから感謝します。

本園はこども園ですので、暑い夏も開園しています。今年も、とても暑い日々でしたね。例年でしたら、子どもたちとプール遊びをしていたはずですが、今年もできませんでしたが、そこで水遊びを充実しようと、園庭に大きな水たまりのような水場をタイヤとブルーシートで造り、子どもたちが楽しめる仕掛けをしました。園庭に響く子どもたちの歓声を聴きながら、この声が途絶えることのないように…と神さまに祈り求めながら、保護者の方々や子どもたちとこれからも共に歩んでいきたいと願っています。



コロナ禍で新たに覚えてきたこと

問い直しに気付かされたコロナ禍

伊勢原幼稚園
主幹 倉地利巳子

人が距離を持ちながら生きる、コロナ禍の日々。特に保護者と共に過ごす行事については問い直しの連続です。その中でいくつか見えてきた事がありました。今まで入園式では保護者と離れ、クラスごとに入場する事にしていました。例年不安の中で大泣きする子がいました。昨年度、保護者一名と新入園児のみの入園式とし、親子で椅子を並べて座っていただき、安心した子ども達の表情を見つめながら、これまで私達保育者は、喜びの入園式に、別々の場所に座る事を強いてきたいたらなさに気づかれました。当たり前のように繰り返してきた事が本当に子ども達の喜びにつながっているか？そのことを問う時を与えられたのです。

を考えると行う事が出来ず、夏休み前の一日、私達保育者で何かできないだろうか？と意見を出し合い、「わくわくデー」と銘打ち、ヨーヨーつりや的当て、ゲーム、手作りコーナーなどのお店屋さんを企画しました。子ども達が張り切ってお店をまわり、主体的に楽しむ姿に、「コンサートより良かった」と実感しています。



今、私は新たな幼児園(認定こども園)にいます。あの、さなかで生れた子どもたちが、保育者の眼差しの中で育っています。ご両親、ご家族のご心配は一方ならぬことだったでしょう。真の宝、希望です。

今や、家族自身も生活の仕方、働き方にも計り知れない迷い、苦勞も続いているかと思っています。

コロナ禍に生まれ、未来へ

白百合幼児園
園長 亀谷美代子

家族が一緒に朝食、夕飯を食べる当たり前でいてなかなか見られない風景でした。休日も家族で分担して、生活をする。



祈り、新しいものを創り出すステージへ

YMCAとつか保育園
園長 齋藤信

「コロナ禍で新しく見えてきたこと」というお題をいただきましたが、この原稿を書いている最中にも感染者数が急拡大し、全国で第五波に入ってきたと報道されています。

去年の今頃は、一度目の緊急事態宣言や登園自粛期間が解除され、今年度いっぱい耐え忍んだら、また日常を取り戻せるのではないかと、漠然と期待をしていました。当時取り組んだことはふたつありました。一つめは懸命に情報を集め、できる範囲で最大の感染対策を行い、安心、安全な環境をつくっていくこと。二つめは、子どもたちの生活や行事を見直す作業でした。

後者については、私たちは、まだまだ従来の保育のやり方、行事の発想から抜け出すことができなかったもので、あらゆることが前年と同じようにできないことに困ってしまいました。そこで新たに覚えてきたことは、そもそもどうしてこれをやっていたのか、何を達成したいのか、原点に立ち返って考えることでした。その結果、オンライン配信などに取

り組み、別の方法で当初のねらいを達成しようと思ひ、それなりに成果もあつたと思います。

しかし、コロナが二年目に入り、見える景色が変わってきました。もう世界は元には戻らないのです。従って昨年の「本来の目的を達成する」というところから、そもそも「本来の」と言うのが何なのか、それも見直してみる必要はないか、ということです。

たとえば運動会。昨年は「どうやって別の方法で目的を達成するか」でしたが、今年は、「運動会そのものを、リセットして考えよう」というのが、職員と話し合っって導き出された方向性です。



今の子どもの姿から新しいものを創り出すというステージへ。これは容易なことではありませんが、神様が導いてくださることを信じます。一層祈りが求められるでしょう。子どもたちの元気な姿、驚くべき成長、神様の変わらぬ愛に励まされ、歩んでいきたいと思ひます。

笑顔をとどけたい

平塚教会附属
平塚二葉幼稚園
主任 関口華子

平塚の中心地に日本基督教団平塚教会の附属幼稚園として九七年前に開園した平塚二葉幼稚園は施設給付幼稚園となり、小規模で保育を行っています。コロナ禍にあつても、子どもたちにとって先延ばしにできないこと、今体験してほしいことは何か？リスクは？とを考えながら毎日奮闘しています。

そもそも幼稚園は、小さな子どもたちの命をお預かりしている現場です。コロナだけでなく、アレルギーやケガ、事故、感染症など命を守るための対策はこれまでも日々問われてきたことです。東日本大地震の時にはずいぶんと保護者から放射能への意識対策も求められてきました。

そういった意味ではコロナ感染から子どもたちを守ることも、できることを精一杯やるしかないのですが、今回は子どもたちを守ってもらわなければならないことが数多くあり、心を痛めていました。パーティーション越しの食事やマスクの着用です。暑い、煩わしい、友だちのお顔も認識できない。それでも慣れてくるの



が子どものすごいところです。保育者もマスクをしていると声が届きにくく、声も大きくなつてしまいがちです。保育者の笑顔は子どもたちや保護者を安心させられるものだと思いますが、その笑顔を見せることも難しいので、声の出し方に気を付けるようになりました。

昨年休園中には、新入園児に職員顔を覚えてもらい幼稚園への期待を高めてもらおうと、YOUTUBE配信をしたり、ZOOMでクラス礼拝をしたりしました。子どもたちから幼稚園にハガキを送ってもらい、そのハガキをYOUTUBEでみんなに見てもらおうことで、幼稚園だけでなく早く会いたいなど友だちへの思いも大きくすることができたようです。

この夏休み期間もYOUTUBE配信をする予定です。マスクを外した素顔で顔いっぱい笑顔の子どもたちに届けたいと思ひます。